

「里のほほえみ」

品種特性と高品質・多収栽培のポイント



平成25年3月

監修：山形県産米改良協会連合会

山 形 県

「里のほほえみ」の品種特性

(平成21年に山形県大豆奨励品種として採用)

- ◇育 成：(独) 農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター
- ①来 歴：母：「東北129号」 / 父：「刈交0264MYF₆」
(1996年交配し、以後選抜・固定)
- ②成 熟 期：「エンレイ」より5日程度遅い「**中生の晩**」
- ③百 粒 重：約37gと「エンレイ」より大きく、「**大粒**」にランク付け
- ④生育障害：「エンレイ」は蔓化倒伏しやすいが「里のほほえみ」は
やや長茎だが**倒伏抵抗性が強い**
- ⑤子実品質：「エンレイ」より裂皮、しわ粒などの**障害粒の発生が少ない**
- ⑥難裂莢性：「エンレイ」に比べ、莢がはじけにくい
- ⑦病害抵抗性：「エンレイ」はダイズモザイクウイルス病(SMV)に弱いが
「里のほほえみ」のSMV抵抗性は「**極強**」にランクされ、
褐斑粒の発生はほとんどみられない
- ⑧機械適応性：倒伏抵抗性に優れ、分枝角度が小さく、分枝の折損も少ない
最下着莢位置が高いため、**機械収穫に適する**
- ⑨加工適性：粗蛋白含有率が高く、**豆腐加工適性が高い**

○生育及び収量、品質

(農業総合研究センター：山形市みのりが丘、2005～2008)

品種名	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	最下 着莢高 (cm)
里のほほえみ	7/30	10/17	84	16.6	4.8	21.3
エンレイ	7/29	10/12	77	16.0	4.7	15.8



稔実莢数 (個/m ²)	全重 (kg/a)	子実重 (kg/a)	百粒重 (g)	粗蛋白質 含有率 (%)	等級
646	87.6	38.2	37.2	44.2	3.1
862	76.9	37.1	31.3	42.8	3.9

注) 等級1 (1上) ~9 (3下)

「里のほほえみ」の栽培のポイント

◎排水対策

団地化、本暗渠・補助暗渠・明渠の施工

◎土づくり

土壌分析を行い、ようりん・苦土石灰等を施用し、pHを6～6.5に調整
地力維持のため、堆きゅう肥などの有機物を施用

◎施肥

基肥：窒素2～3kg/10a、リン酸6～8kg/10a、カリ10～12kg/10a
※根粒菌の活性を促すため、窒素肥料はできるだけ施用量を抑える

◎播種期・栽植密度

5月下旬～6月上旬に播種（遅くとも6月中旬まで）
大粒品種なので10a当たり5kg程度の種子を準備する
12,000本/10a前後が基本
畝立て播種により初期の湿害を回避できる

◎雑草防除

播種直後：土壌処理剤散布 →（茎葉処理剤散布） →手取り除草

◎中耕培土

1回目：3葉期（子葉節まで）
2回目：6～7葉期（初生葉節～第1葉） 開花1週間前までに終了

◎病害虫防除

紫斑病：種子消毒、開花期25日後～35日後の薬剤散布
マメシンクイガ：8月下旬（8月25日頃）と9月上旬（前回散布10日後）の薬剤散布

シストセンチュウ：抵抗性が「弱」なので、連作を避けるとともに、シストセンチュウの被害が発生している圃場での作付けは行わない

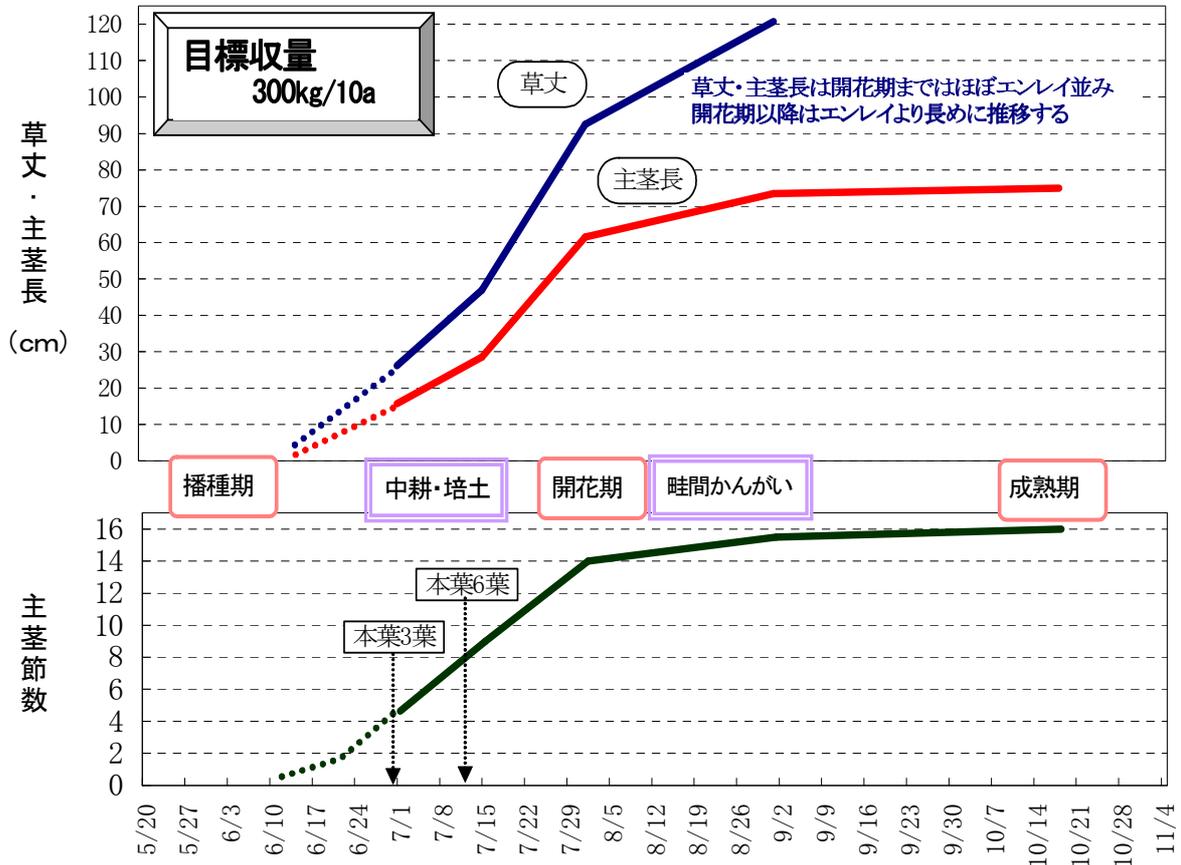
◎コンバイン収穫適期

子実・莢水分20%以下、莖水分60%以下（おおよそ成熟期後7日以降）

◎干ばつ対策

開花期から登熟初期にかけて乾燥が続くと青立ちが発生しやすい
圃場が乾燥した場合は、畦間かんがいを実施する。

「里のほほえみ」の栽培ごよみ



成熟期(内陸)	
主茎長	75cm
主茎節数	15~16
分枝数	4~5
茎径	10~13mm
最下着莢節位高	18cm
m ² 当たり莢数	450前後
百粒重	40g

成熟期(庄内)	
主茎長	72cm
主茎節数	15~16
分枝数	4~5
茎径	10~13mm
最下着莢節位高	16cm
m ² 当たり莢数	600前後
百粒重	35g